

タイと日本の読書教育における学校図書館の役割と課題

The Role and Problem of Thai and Japanese School Libraries in Reading Education

学籍番号：201121751

氏名：THAMSEMA CHUTIRAT

タイでは、1999年の国家教育法が決定されたことにより、教育方針では生徒が自ら学ぶだけでなく、教育の様々な学習方法で生徒の主体的な学びを重視するような教育課程が定められ、選択科目や総合学習等の導入が図られた。一方、図書館においては、2004年には利用者が幸せに利用できる活発な図書館へ改善する「Living Library」という考えが提唱された後、各図書館は経営管理やサービスなどを新たに見直すようになり、青少年の読書環境づくりや司書教諭の研修などの事業が行われるようになった。2009年にタイ青少年の読書率を高めることを目的として、当時の教育省は「3 Good Library」という「良いメディア・良い環境・良いサービス」を整備する計画を立案し、学校図書館の整備充実を図った。このような状況の中で学校図書館は、様々な情報資源を整備し、学習支援活動と読書支援活動を行うことが重要視されてきている。その結果、学校図書館の蔵書不足、司書教諭の過重な負担などの問題が明らかになった。そのため、学校図書館における他の機関との連携・協力の必要性が議論され、学校図書館整備の基準・指標にも学校図書館整備のための連携・協力を行うことが求められた。しかし、実際にはタイの学校図書館では公共図書館などの他の機関との連携・協力が十分に行われていない。

そこで本研究では、日本の学校図書館における連携・協力の現状と課題を明らかにし、それを基にタイの学校図書館の連携・協力を推し進め、読書教育を支援するための方策について考察することを目的とした。研究方法は、文献調査、アンケート調査、インタビュー調査である。文献調査は、タイと日本の学校教育及び学校図書館に関する主要な文献を対象とした。また、アンケート調査はバンコク県の小学校の学校図書館担当者を対象に行った。そして、インタビュー調査はバンコク県とつくば市の小学校の司書教諭を対象に行った。これらの調査から、タイの学校図書館の現状と課題を考察した。そして、タイの学校図書館の連携・協力を推し進め、読書教育を支援するための方策として5点を提示した。

それは、(1) 地方自治体は、司書教諭研修を積極的に実施して、学校図書館の目的や役割、他の機関との連携の必要性について理解を図ること、(2) 司書教諭は、学校の図書館運営委員会から蔵書取得や読書教育などの協力だけでなく、他の機関との連携・協力に関する支援を受けること、(3) 司書教諭は、学校の図書館運営委員会や教育委員会の支援を得て、地域の大規模学校の学校図書館や大学図書館等と連携・協力し、廃棄図書のリサイクル等を行い、蔵書の充実を図ること、(4) 司書教諭は、仕事の負担を減少させるために、学校のPTAと図書館運営委員会の支援を得て保護者のボランティアの配置や、大学と連携・協力し大学生のボランティアの配置を推進すること、(5) 司書教諭は、保護者・大学生のボランティアを活用して、地域の学習センターとして学校図書館を開放し、地域との連携を深めることである。

研究指導教員：平久江 祐司

副研究指導教員：吉田 右子